

さかいで再生会議（第２回）議事概要

日時： 令和４年１１月７日（月）１０：００～１２：００

場所： 坂出市 本庁３階中会議室２

委員： 天米一志、石井秀幸、新居準也、片山将光、中橋恵美子、川滝浩嗣、大美省吾（欠席）、中井今日子、山下健二、関口智彦、平池岳弘、尾幡季之（欠席）、浦田俊一

（１）坂出駅周辺再整備基本構想について

１）人口の流出入追加分析

【委員意見】

- ・坂出は働くところだけど住むところではないと言うのではなく、実は働く場所があるというのは非常に尊いことなので、その辺りをもっと強調していけばよいのではないかな。
- ・日本人だけでなく、海外の方も含めたインターナショナルなまちづくりのあり方を、このまちでも考えていくべきである。
- ・他市町も新しい家族を取り込もうとしている中で、何かそれ以上のものを坂出市が打ち出していないと、住みたい居住地として選ばれない。

２）アンケート結果から見た傾向

【委員意見】

- ・回遊性を高めるため、駅等も含め、上手く鉄道から他の公共交通等への動線をつなげていく取り組み・対策が必要である。ウォーカブルなまちづくりにするためには、自動車利用を前提とするのではなく、公共交通を使ってもうまく回遊性を高められるような方針で進めていった方がよい。
- ・坂出市は地域包括ケアシステムの仕組みが周辺市町よりも優れており、市立病院や大きな病院もあり、救急にも対応しているという非常に大きなメリットがある。もっとこういった点を打ち出し、既存の施設をつなぎ合わせることによって、子育て世代などにもＰＲできると思う。
- ・出生数に対する子育て支援施設数は高松市に対して坂出市の方が充実しているように、他の施設も実際は近隣市町より充実しているのに足りていないようなイメージが先行しているだけかもしれないので、しっかりと分析する必要がある。
- ・坂出市には、ありとあらゆる専門性に特化した高校が存在するので、子育て世代のお子さんが、中学、高校になったときの選択肢にバリエーションが豊富であることを発信すべきである。

３）中心市街地再生に向けた目標設定

【委員意見】

- ・市民を育てていく場所をハードとして構えることが必要である。
- ・中心市街地には、魅力的な可能性を持っている施設があるし、プレーヤーもいる。プレーヤー

の意見を拾い上げながら、この計画を成し遂げるための中心人物として捉えるべきである。

- ・若い人たちが、市の持つインキュベーション機能を活かし、何か新しいことにトライできるような中心市街地を掲げるべき。
- ・中心部を整備しても、そこに来るためには車、電車、バス、自転車を利用することになる。ウォークアブルなまちの実現には、交通機関をどのようにつないでいくかを考えることが大事である。
- ・学校が終われば、すぐに塾という学生もたくさんいるので、そういった人への学習塾とか、自習スペースを実現しても面白い。
- ・教育を盛り上げ、若い人の意見やアイデアをうまく取り入れられるよう、タウンプロモーション戦略を考えていく必要がある。
- ・目標設定の強みと弱みの分析がもう少し必要。中長期的に、このような強みと弱みから考えるところだという分析をしたうえで、目標設定につなげてほしい。
- ・アナログとデジタルの融合について検討すべき。
- ・ウォークアブルなまちづくりは、滞留空間が非常に大事であることから、滞留空間を生み出す場所、滞留する人を受け入れる場所を作ることが必要。
- ・情報を受け取る側の視点に立つことが大事である。

4) 中心市街地再生コンセプト（案）

【委員意見】

- ・自分自身の魅力に気づかないでいる坂出市民が多いと思うので、地元に素晴らしいものがたくさんあるということを上手く伝えていくことが必要。
- ・素晴らしい場所を作っても、心理的ハードルが高くて集まりづらい、訪れづらいということがあってはいけませんので、「まちのリビング」という気軽に繋がるというメッセージ、コンセプトは良いと思う。
- ・市民一人ひとりにとって、中心となるエリアは異なってくるため、そこをうまくつなぎ合わせ、小さな拠点や回遊性を作り出すことが大事である。
- ・チャレンジャーにやさしいまち、チャレンジを受け入れる、拒まないまちというイメージが広がれば、いろんな人が多様性を持ってチャレンジしてくれる。坂出市のイメージアップにもつながるので、チャレンジに理解のあるまちというのをどんどん打ち出していくべきである。
- ・大きなコンセプトと中間的なコンセプトと、もっと各論に入ったコンセプトというように細分化することでイメージにつながっていきやすくなると思う。

5) コンセプト実現に向けたイメージ

【委員意見】

- ・それぞれのエリア間に距離があるので、モビリティ的なものを上手く活用しながら、うまく人を動かす仕組みは必要となる。
- ・週末は中心市街地から坂出郊外にある魅力的な場所へ出かけるなど、まちを軸に坂出市内を回

遊しながら、街中では得られないヒトモノコトと出会える機会・場所を提供できるようなブランディングをしていければ良い。

- ・歩いて楽しいまちづくりをするためにも、歩行空間を広げていくという取り組みも必要である。
- ・西運河は非常に面白いので、関西にあるタグボート大正のように若い人が集まるような拠点があれば良い。

6) 中心市街地と5つの拠点の概要

【委員意見】

- ・西運河地区の水域、防災面につき、少なくとも両景橋のあたりまでは考えたうえで、ウォーターフロントとしてのにぎわいをどう作るかということを考えてほしい。
- ・現図書館は駅から徒歩圏内であり、回遊するにはいい距離感であるので、上手く活かせれば良い。
- ・1つの拠点にすべてを担わせるのではなく、各拠点に関連性を持たせることで、小さな拠点づくりと、小さな回遊性につながると思う。
- ・これだけの広いエリアなので、坂出市の皆さんが、地域密着型で未来を一緒に作ってほしい。

以上